

平成20年度「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

モデル事業名	協働の力でふるさと回帰を実現する事業
対象地域	県南地区
活動概要	<p>福島県の県南地区は、関東に近く東北新幹線や東北自動車道、空港などの交通インフラが整備されていて便利な地域であるが、都会からの二地域居住や移住が思ったように進んでいない。隣接する栃木県那須地区と比較しても、遜色ない地域にも関わらず、移住対象地域としての人気は決して高くない。また、人口の減少傾向や高齢化の課題も抱え、その改善も進んでいない実情がある。さらには、近年地域コミュニティも崩壊傾向にあり、共に支えあう関係が希薄になり、田舎の良さが次第に失われつつある。特に農村部の高齢化は著しく進み、耕作放棄地が目立ち、優秀な人材が都市部に流出して、まちづくりや地域活性化がままならない状況にある。しかも、その対応策を模索しているにも関わらず、その傾向に歯止めがかからない状況にあり、抜本的な改善策の実施が急務となっている。</p> <p>本プロジェクトは、都会の住民でふるさと回帰を志向する人々に、この県南地区が二地域居住・移住の対象地域として、大変相応しい土地であることをアピールするものである。そして、観光客増や、移住促進につなげ、地域の活性化につなげることを目指す。さらに、地域の産・学・官・民が協働でふるさと回帰の流れを加速する運動を展開し、その運動により地域コミュニティを創生して、心豊かなライフスタイルを実現させ、国土の均衡ある発展に寄与していくことを目指す。</p>
今年度の主な取組	<p>①実施3団体が中心となって、産・学・官・民が連携し、都会のふるさと回帰を志向する人々のための体験交流見学ツアーを主催し、田舎暮らしのよさをアピールする。</p> <p>体験交流見学ツアーの中に、地域のNPOや福祉施設、または市民活動団体などの見学を織り込み、定住や二地域居住をした後に、それらの施設において自分の経験や知識を生かした社会貢献活動が出来る喜びがあることを知ってもらう。</p> <p>都会からのツアー参加者は白河市内に宿泊させて、地元の食材を使った郷土料理を地元の農家ボランティアが提供するなどし、地元住民や既移住者との交流懇談会を開催する。また、ツアーにおいては、阿武隈川をみる機会を設けるなどし、治山治水の重要性を参加者と共に認識してもらうほか、併せて、完成した国道289号甲子トンネルを見学して、地方における交通インフラ整備の必要性を認識していただく。</p> <p>②二地域居住・定住の促進に向けて、地元の福島県建設業協会県南支部や複数の地元不動産会社と協議するなどし、都会の人々がどんな移住プランを求めているのかや、どんな土地や住居が都会の人々にとって魅力的なのか等の検討を行う。</p> <p>③移住コンシェルジュの養成講座を開催し、既に移住している人たちのネットワークを活用しながら地元で埋もれた人材を掘り起こして、移住受け入れ推進体制を整備する。</p> <p>④この体験交流見学ツアーなどの事業を経験することにより、地元住民が自分たちの住む郷土の素晴らしさと田舎暮らしの良さを再発見し、都会に住む人々に自信を持って、ふるさと回帰を薦められるようになることを目指す。とともに、人間が人間として心豊かに暮らすためには、人間本来の住み方である里山暮らしが望ましいということを実感する。そしてそれが、理想のライフスタイル、言い換えればアンチエイジングとLOHASな生き方を実現することになることを認識するようになる。</p>

<p>活動結果</p>	<p>田舎暮らしコンシェルジュ養成講座への参加者の中には、実際にグリーンツーリズムを行なっている人たちや、これから地域で農業体験するツアーをしたいと思っている人たちがあり、お互いにネットワークを組んで、新たな農業の担い手を都会から求めることが出来るという感触を得た。</p> <p>また、田舎暮らし体験交流ツアーの試行を実施した結果、地域の者たちが思っている以上に、都会の人たちがこの県南地方が大変魅力的だと感じていることが判明した。実施後の感想を寄せてもらったところ、都会からの絶妙な距離にある県南地区の優位性、また適当に便利で不便なバランス感、そして何よりもこの地区の人々の心の温かさを十分に感じたという感想を多く得ている。</p> <p>更に、田舎暮らし体験交流ツアーと田舎暮らしコンシェルジュ養成講座を開催して気付いたのは、やはり地域全体を巻き込んで、行政・アカデミーや民間企業と協働してこの事業を行なわなければならないという認識であり、活動を通して、魅力的な移住プラン策定や二地域居住を推進するための方策を見出すきっかけを得るとともに、今後、アカデミーや民間企業・農協などと協働してこの活動をすることにより、二地域居住・移住が加速度的に進むという期待感を持つことが出来た。</p> <p>活動を通して感じたことは、崩壊しつつある地域コミュニティを憂い、何とかしようとして立ち上がって活動している仲間がいるという現実と、そういう人たちがネットワークを組みたいという切実な願いを抱いているという事実であり、特に、田舎暮らしコンシェルジュ養成講座に参加してくれた人たちは、まさにそういう実践者であり、今後ネットワークを組んで協働していくことを確認した。移住者の団体からの参加もあり、彼らとも協働して、地域力をアップさせる活動に対する共通認識を得たことも成果である。</p>
<p>当初予想していなかった効果</p>	<p>田舎暮らしコンシェルジュ養成講座を開催したことにより、多くの人々に活動が知れ渡り、多くの仲間を得ることが出来た。そのことにより、ネットワークの広がりを実現できた事と、いろいろなアドバイスや企画アイデアが生まれた。</p> <p>また、実際にグリーンツーリズムを実行している人がコンシェルジュ養成講座に参加し、これからグリーンツーリズムを実行したいと思っている受講者に各種情報の提供をしてきていた。</p> <p>そのほか、各地で移住者受入れのための環境整備を行なっている人の情報を仕入れることも出来て、今後の連携に向けた取り組みが進んだ、という点などもあげられる。</p> <p>異なる感性や想像性を持った仲間が加わったということは、想定しなかった成果だと考えられる。</p>

実施状況(写真)



【写真:左】田舎暮らし体験交流ツアーの実施状況(「白河の関跡」の見学

【写真:右】田舎暮らしコンシェルジュ養成講座の実施状況

応募団体名

NPO法人白河ふるさと回帰支援センター、NPO法人こころん、
NPO法人しらかわ市民活動支援会 (応募代表はふるさと回帰支援センター)

リンク

部局/担当者名

NPO法人白河ふるさと回帰支援センター 副理事長 舟木 仁

連絡先

TEL:0248-24-1099
E-mailアドレス:funaki@furusatokaiki.com

推薦市町村名

白河市 外